

2016年11月6日 全聖徒主日

福音書 ヨハネ 16 : 25-33

第一の日課 ヨナ 2:1-10

第二の日課 I コリント 15:50-58

勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。

ヨハネ 16 : 33

ねらい

・全聖徒主日が亡くなった人を覚えるだけではなく、私たちへの恵みを覚える時であると知る。

説教作成のヒント

・口語訳では「患難の中にあっても勇敢でありなさい」と言われるように勇敢であることが求められる。それは主と共にある勇敢さで自分勝手なものであってはならない。

豆知識

・ヨハネ福音書は「あなたが神のもとから来られたと、わたしたちは信じます。」(30節)との告白へと導くことが目的とも見える。神の御子イエス様だからこそ、死に打ち勝つことができる。

説教

ハロウィンのお祭りをした人がいるかもしれません。ハロウィンは10月31日ですね。お化けやヒーローやヒロインの仮装をした子どもたちが近所の家々を回って「トリックオアトリート」、「いたずらかお菓子か」と言ってお菓子をもらったりします。でも、どうしておばけの格好をしたり、カボチャの提灯をつくったりするのでしょうか。

この日は実は、教会では全聖徒の日と呼ぶ、亡くなった人たちのことを覚えてお祈りする日の前日にあたります。クリスマスの前日がクリスマス・イブと呼ばれるように、この日の前日はハローズ・イブと呼ばれていて、そこからハロウィンになったなんていわれています。ですからハロウィンとは、全聖徒の日の前日、前の晩であるということなのです。前の晩に亡くなった人たちが帰ってくるからお化けの格好をするのでしょうか。

さて、亡くなった人たちのことを考えると寂しいでしょうか。そうではありません。亡くなった人を覚えてお祈りするときに大事なことは、その人たちの上に神さまの祝福がたくさんあったことを覚えることが大事です。それと同じくらい私たちにも神さまの恵みがあることを覚えて、神さまにわたし自身をお願いして委ねることが大事なんです。

イエス様は今日の亡くなった方々を覚える主日にこう言われます。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」と。この世界を生きると楽しいことだけではなく、大変なこと、不安や悩みもたくさんあります。けれども、イエス様はそれに上回る恵みをくださいます。その時はイエス様が一緒にいてく

ださらないように思えても一緒にいてくださいますし、励まし続けてくださっています。イエス様はこの世界のすべてに勝っておられる方。どんな困難にも負けない、あなたを見捨てないと約束してくださっていることを信じてイエス様と一緒に歩みましょう。

## 分級への展開

### さんびしよう

\*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□60番 「かみよわたしの」

□改訂131番 「悲しいことがあっても」

### やってみよう

#### ☆みことば風船キャッチボール

<用意するもの>

ビニール袋（人数分）・色画用紙12cm四方（人数分）・マジック

- ①色画用紙を半分に折り、ハート形になるよう切る。
- ②できたハートに、今日のみことば「しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世にかっている。」ヨハネ16:23と書く。
- ③ハートをビニール袋に入れて、膨らまして風船を作る。（ビーズや、残りの画用紙を小さく切ったものを一緒に入れてもきれい）
- ④みんなで輪になって、まずは1つのビニール風船を使い、「勇気を出しなさい」と言って誰かに投げる。
- ⑤キャッチした人は、「わたしは、すでに世にかっている」と言って、別の人に「勇気を出しなさい」と言って投げる。という感じでキャッチボールする。慣れてきたら、ビニール風船を増やしてみましよう。

### 話してみよう

- ・死んだ人の事を思い出すとキッってどんな時？
- ・もし自分が死んだら思い出してほしい？そうならどうやって思い出してほしい？
- ・つながっているってどんな気持ち？手をつないでみよう！間にイエス様の人形置いてみたら？亡くなった人の写真を置いてみたら？どんな気持ち？

2016年11月13日 聖霊降臨後第26主日

福音書 ルカ 20:27~40

第一の日課 マラキ 3:19~20

第二の日課 ユダ 17~25

すべての人は、神によって生きているからである。

ねらい

・今を生きるわたしたち、そして永遠の命にすでに生きている私たちへのみことばであることを覚えたい。

説教作成のヒント

・コリント人への第二の手紙 5 章 17 節に「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである」とあるように新しい命はすでに私たちの内にある。

豆知識

・サドカイ派は上流社会の人々で、祭司、教育のある金持ちそして貴族の家族に属する人々。彼らの内の一部は大祭司経験者だったりもいた。口伝の律法ではなく、昔からの書き記された律法を大事にし、ファリサイ派などと対立した。

説教

「はらぺこあおむし」というお話を読んだことがあるでしょうか。日曜日の朝に生まれたあおむしが、月曜日にはりんご、火曜日には梨と、水曜日にはすもも、木曜日にはいちご、金曜日にはオレンジ、そして土曜日にはチョコレートケーキとアイスクリームとピクルスとチーズとサラミとペろペロキャンディーとさくらんぼパイとソーセージとカップケーキとすいかを食べました。でも、土曜日には食べ過ぎでお腹を壊してしましますが、やがてさなぎになり、最後には美しい蝶へと変身していく物語です。

くいしんぼうなはらぺこあおむしですが、さなぎにくるまる前にはたくさんのものを食べて栄養を取りました。さなぎの中に入ってはまるで死んだようになって、食べも飲みもしませんでした。それから美しい蝶になりましたが、その世界は今までとは全然違う世界でした。葉っぱの上だけではなく、自由に空を飛ぶことができます。あおむしだったころには想像することもできない世界が広がっていました。きっと今までとは違う新しい命に生きている。そんな風を感じたかもしれません。

イエス様と共に生きる、イエス様のことばをいただく、この世界を生きて行くことははらぺこあおむしと同じように新しい命に生きるための日々なのかもしれません。新しい命に生きることは今までのこととは全然違ってわたしたちの想像を遙かに超えています。イエス様は「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。すべての人は、神によって生きているからである」と言われます。それは今、わたしたちにたくさんの栄養をくださっているということであり、これからもくださるという約束の言葉です。また蝶として空を飛ぶときにも助けて導いてくださいます。今もこれからも神さまの恵みを受けることを信じ、信頼して、みことばの栄養を、また新しい命をいただいて生きて生きましょう。

分級への展開

さんびしよう

\*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□3番 「きよいあさあけて」

□改訂 97番 「美しい朝も」

やってみよう

☆かみさまありがとう

さんびか「かみさまといつもいっしょ」（ゴスペルミュージック）を歌う。  
（最後に歌ってもよい）

子どもたちと感謝できるものをあげて、カードに書きだす。



例えば「家族をありがとうございます。」  
「住む家をありがとうございます。」  
「食べれる野菜や果物をありがとうございます。」  
「友だちをありがとうございます。」

※感謝すべきことを表す絵や写真をあらかじめ少し集めて  
おくと効果的。絵や写真を見ながらことばにする。

カードに書いたものをみんなで言ってお祈りする。  
（時間があればさんびかの替わりにをつくろうたってみましょう。）

話してみよう

- ・牧師先生にユダヤ教のファリサイ派やサドカイ派の人たちの「復活」についての考え方を聞いてみよう！
- ・死んだあとどうなる？死んだ人って今どうしてると思う？
- ・生き続ける上で必要なものってなんだろう？

2016年11月20日 聖霊降臨後最終主日

福音書 ルカ 21：5-19

第一の日課 イザヤ 52:1-6

第二の日課 I コリント 15:54-58

忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。

ルカ 21:19

ねらい

・終わりの時に語られる言葉であるが、希望がどんな時にもあることを覚える。

説教作成のヒント

・「髪の毛一本」はごくわずかなもの、ほんの小さなものた。それさえも守られるということが大事。

・「命」とは永遠の命であり、今を生きる命。

豆知識

・紀元 70 年、ユダヤ戦争において、ローマ帝国軍は 3 日間に渡って聖所に火を放ち、立て籠もったユダヤ人を虐殺して、その後に神殿を破壊した。そのような現実の困難の中で書かれたものでもあると思われる。

説教

マルティン・ルターの言ったと言われている言葉に「明日世界が終わるとしても、私はリンゴの木を植えるだろう」という言葉があります。同じようにカトリックの修道士アッシジのフランシスコが兄弟の修道士といっしょに庭で働いている時に「もし、今晚、世界の終わりが来ると知ったら、あなたは何をしますか」と聞かれて、フランシスコは「庭での仕事を続けます」と言ったそうです。わたしたちならどうするでしょうか。あと、何時間しかないから今やること、いつもやることを放っておいて、あれを、これをとやり残したことがないように生活するのでしょうか。

今日の聖書の言葉は世の終わりが来るようなことが書かれています。「大きな地震があり、方々に飢饉や疫病が起こり、恐ろしい現象や著しい徴が天に現れる。しかし、これらのことがすべて起こる前に、人々はあなたがたに手を下して迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のために王や総督の前に引っ張って行く」と書かれてもいます。こういうことを聞かされると不安に思ったりします。でも、イエス様の言葉はどんな時もわたしたちを怖がらせる言葉ではなく、「よろこびの知らせ」であることを忘れてはいけません。どんな時でも希望を持つようにとイエス様は言われています。戦々恐々と生きて行くことが求められているのではないのです。「あなたがたの髪の毛の一本も決してなくならない」という言葉でどんな小さな害もないようにしてくださるとイエス様は約束してくださっています。守ってくださる。それ以上に心強いことはありません。忍耐とは一人で耐えることではなくて、イエス様に委ねてイエス様と一緒に歩むことです。

そして、わたしたちにとって大事なことは与えられた一日一日を忠実に生きて行くことです。今日も落ち着いて、なすべきことをする。それが命を得ることなのです。

分級への展開

さんびしよう

\*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□120番 「どんなときでも」

□改訂 129番 「どんな時でも」

やってみよう

☆野菜汁を作ろう

11月の第4日曜日（アドベントが重なる場合は第3日曜）が  
収穫感謝日です。

## ・ 野菜汁をつくる

あらかじめ、大鍋や調味料を準備しておく。

また、前の週までに野菜の持ち寄りを伝えておく。

1. みんなで持ち寄ったものを集めて、ひとつひとつ感謝しましょう。  
(鬼みをかぞえましょう)
2. 野菜汁を作る。野菜を洗う人、切る人、煮る人など  
分担してやりましょう。
3. 煮込んでいる間に、片づけたり、器や箸などを準備して  
テーブルのセッティングをしましょう。
4. 片づけあっていたら、たくさん鬼みに感謝しましょう。

※ 持ち寄る野菜は、キャベツの葉1枚やブロッコリーの芯など、  
家に残っている野菜でもよい。

話してみよう

- ・ この世の終わりって考えたことある？もし来るならどうやって終わると思う？
- ・ 2011年3月11日以前の教科書と以降の教科書を見比べてみて、どこが一緒でどこが違うが調べてみよう。
- ・ 生きることが大変と思ったことってある？

2016年11月27日 待降節第1主日

福音書 マタイ 21:1-11

第一の日課 イザヤ 2:1-5

第二の日課 ローマ 13:11-14

ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ。

マタイ 21:9

ねらい

- ・待降節の始まりにあたって、心の中にイエス様をお迎えする準備をする。

説教作成のヒント

- ・待降節には「待つ」ということ、そのための準備が協調される。また王様として来られるイエス様が赤ちゃん、何も持たない方であることが大事。

豆知識

- ・「アドベント（待降節）」という言葉は、「到来」を意味するラテン語からきている。「待つ」側面が強調されやすいが、本来、神から到来する恵みの方に重きを置いた言葉である。
- ・アドベントキャンドルは1本目「予言のキャンドル」2本目「天使のキャンドル」3本目「羊飼いのキャンドル」4本目「ベツレヘムのキャンドル」（5本目「キリストのキャンドル」）

説教

松谷みよ子さんの本、モモちゃんとプーの中に「クレヨンドーン」というお話があります。みんなと同じくらいの年齢のモモちゃんとコウちゃんはある日、クレヨンで絵を描いて遊んでいましたが、コウちゃんは見たいまんががあり、テレビをつけました。ところが、テレビではどのチャンネルも戦争のことばかりです。モモちゃんは言います。「ねえ、せんそう、どこまでくるの？えきまでくるの？かどの、おかしやさんまでくるの？おうちまでくるの？モモちゃん、こわいよ」と。そして、「どうしておとなたちはせんそうするの？せんそうなんかやめて、ご本よんだり絵をかいたりすればいいのに、ぞうさんとか、お花とか、それからおよめさんとか、さ。」と言います。そこでモモちゃんが考えたのは戦場にはクレヨンも画用紙もないのだと。クレヨンと画用紙をポケットにつめると戦争ばかりしているテレビの世界に飛び込みます。「戦争やめて」と言っても誰も振り向いてはくれません。そこで大砲にクレヨンと画用紙を込めて打ち出すと、兵隊さんたちは戦いをやめます。喜んで、手をのびしてはねあがり、クレヨンにとびつき、画用紙とクレヨンをかかえ、座りこんで絵を描き始めました。太陽や花や家族の絵を。しかし、夢から覚めると、やはり戦争は終わっていませんでしたというお話です。でも、戦いを止めることができる時はは

大人も子どももクレヨンを持ち、平和を描いていく時ではないでしょうか。武器、剣を持つのではなく、クレヨン、ペンを持つ社会になって欲しいと思います。

アドベントはイエス様をお迎えする時です。イエス様は小さなろばに乗ってやって来られました。強そうではありません。でも、その姿はクレヨン、ペンを持つ大人のようなのです。そうです。イエス様は平和をくださるために今日、来てくださっています。アドベントは心の準備をしてイエス様を待つ時です。心整え、平和の方を迎えましょう。

### 分級への展開

#### さんびしよう

\*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□82番 「よあけのそらに」

□改訂65番 「主を待ち望むアヴェント」

#### やってみよう

☆簡単アドベントカレンダーをつくろう。



画用紙にツリーの絵を描き、○印に1～24の数字を書き入れよう。



100円ショップにある、シール（いろんな色があるよ）を24コ分持ち帰り、毎日1枚ずつ数字の日に貼っていこう。

簡単アドベントカレンダーのできあがり！！

**話してみよう**

- ・イスラエルの人たちは、イエス様にどんなイメージを持っていたか考えてみよう。
- ・「心にイエス様をお迎えする」とはどういうことでしょうか。
- ・あなたは、イエス様をお迎えするために、どんな準備をしたらよいと思いますか。